

# 2013年度決算説明会

2014年5月16日

株式会社 神鋼環境ソリューション

I 2013年度決算

II 2014年度見通し

III 2013~15年度中期経営計画進捗状況

I 2013年度決算

# ◆ I 2013年度決算 全体概要（連結）

単位：億円

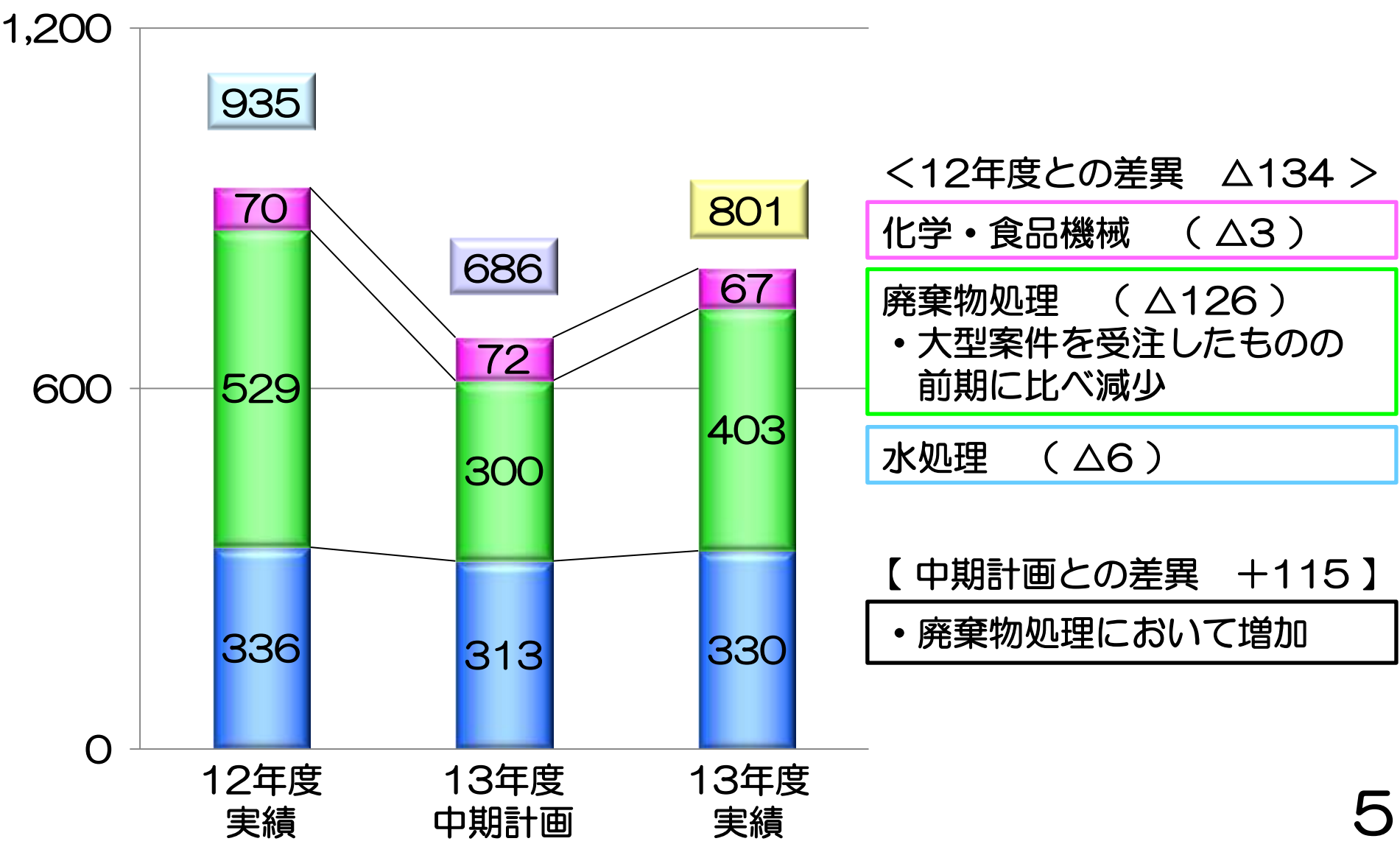
	12年度 実績 ①	13年度 中期計画	13年度 実績 ②	差異 ②-①
受注・受託高	935	686	801	△ 134
売上高	726	660	681	△ 45
営業利益	39.6	21.0	26.4	△ 13.2
《営業利益率（％）》	《 5.5 》	《 3.2 》	《 3.9 》	—
経常利益	39.1	20.0	26.0	△ 13.1
《経常利益率（％）》	《 5.4 》	《 3.0 》	《 3.8 》	—
特別損益	1.2	0.0	0.0	△ 1.2
当期純利益	24.4	11.0	13.1	△ 11.3
《当期純利益率（％）》	《 3.4 》	《 1.7 》	《 1.9 》	—

※受注・受託高は長期運転維持管理業務の受託高を含む

◆ I 2013年度決算  
セグメント別受注・受託高（連結）

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械

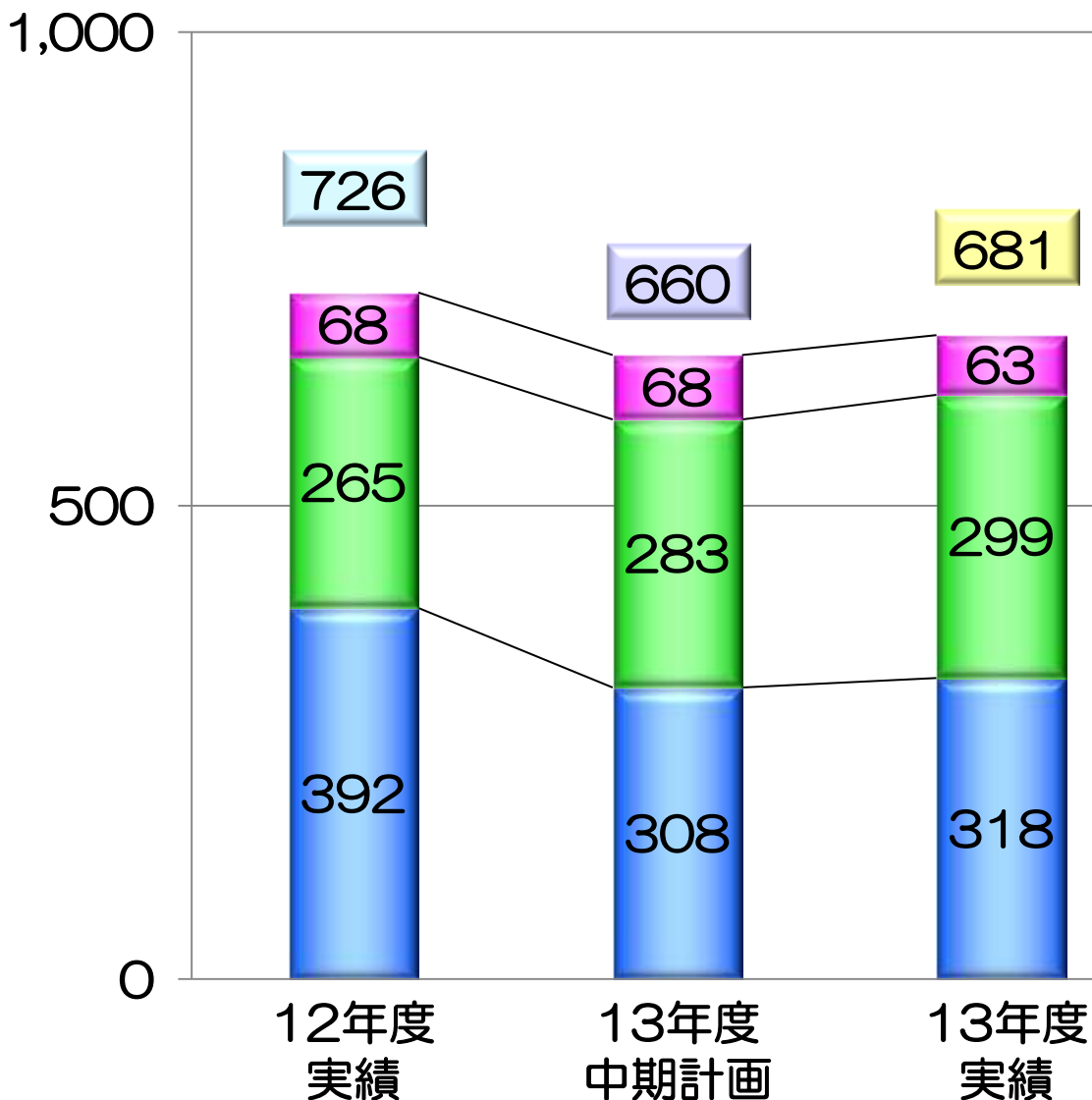
単位：億円



◆ I 2013年度決算  
セグメント別売上高（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械



< 12年度との差異 Δ45 >

化学・食品機械 (Δ5)

廃棄物処理 (+34)

- 既受注大型案件の建設工事が進捗したことやアフターサービス分野が堅調に推移したこともあり前期に比べ増収

水処理 (Δ74)

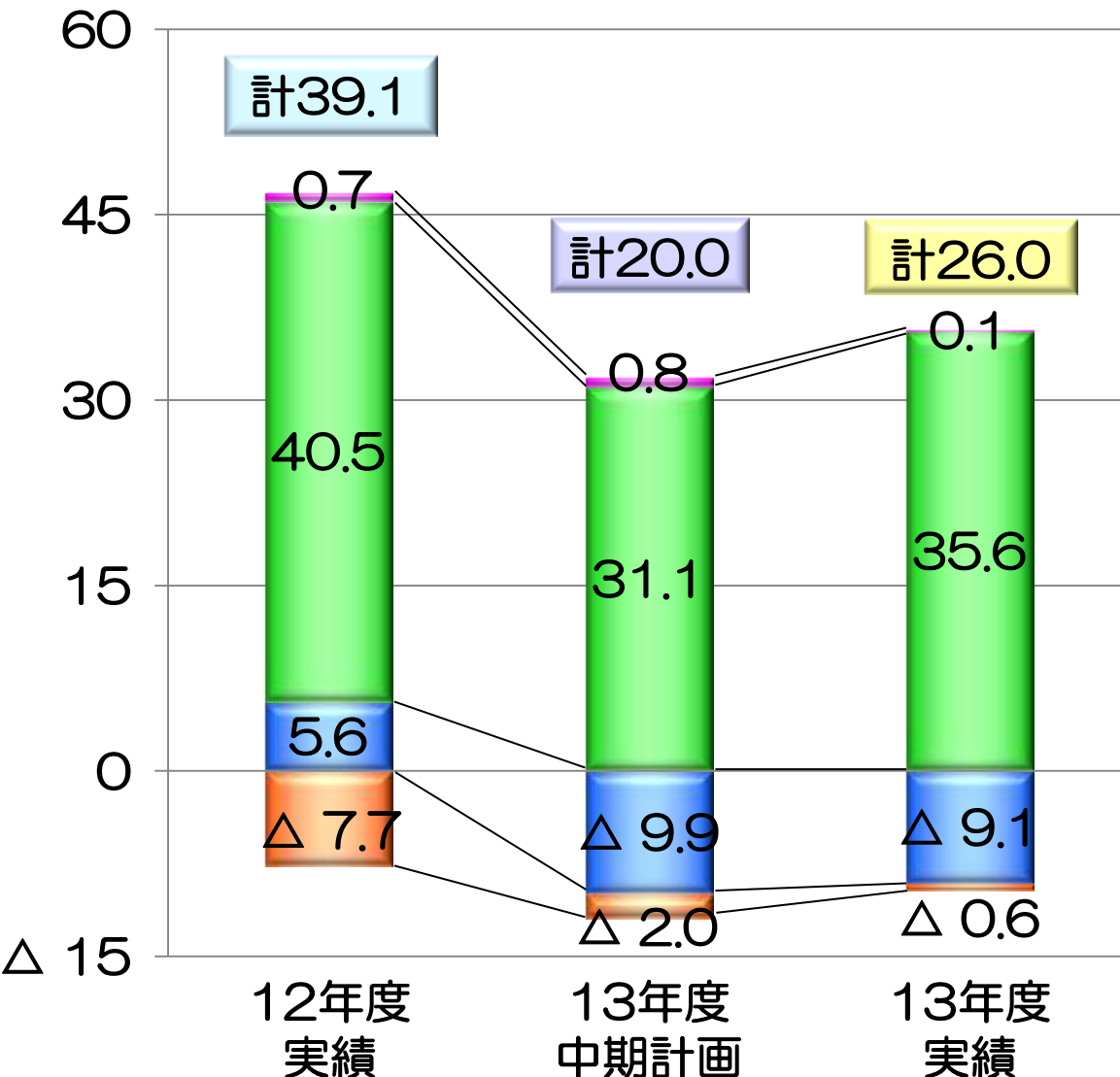
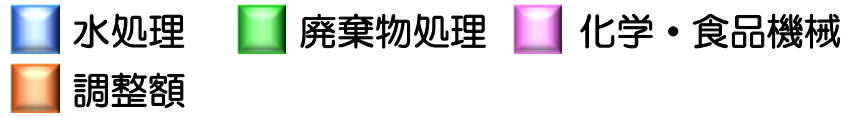
- 大型案件の売上計上があった前期に比べ減収

【中期計画との差異 +21】

- 官需水処理分野にて当初計画外案件の受注、売上増により増収
- 廃棄物処理分野のアフターサービス事業受注増により増収

◆ I 2013年度決算  
セグメント別経常利益（連結）

単位：億円



< 12年度との差異 Δ13.1 >

化学・食品機械 (Δ0.6)

廃棄物処理 (Δ4.9)  
・コストダウン効果等はあったものの、案件構成の変化等により減益

水処理 (Δ14.7)  
・海外水処理分野での赤字幅縮小はあったものの、減収及び案件構成の変化等により減益

調整額 (+7.1)

【中期計画との差異 +6.0】

・水処理/廃棄物処理両分野におけるアフターサービス分野での増収により増益

◆ I 2013年度決算  
連結財政状態・配当

		単位：億円	
		12年度 実績	13年度 実績
総資産		565	586
株主資本	資本金	60	60
	資本剰余金	33	33
	利益剰余金	102	108
	計	195	201
《自己資本比率（％）》		《 34.8 》	《 33.4 》
外部負債残高	短期借入金	32	85
	長期借入金	4	1
	計	36	86
《D/Eレシオ（倍）》		《 0.19 》	《 0.44 》
年間配当金（円/1株）		9.00	9.00 （予定）
配当性向（％）		29.7	55.0 （予定）





Ⅱ 2014年度見通し

◆Ⅱ 2014年度見通し  
全体概要（連結）

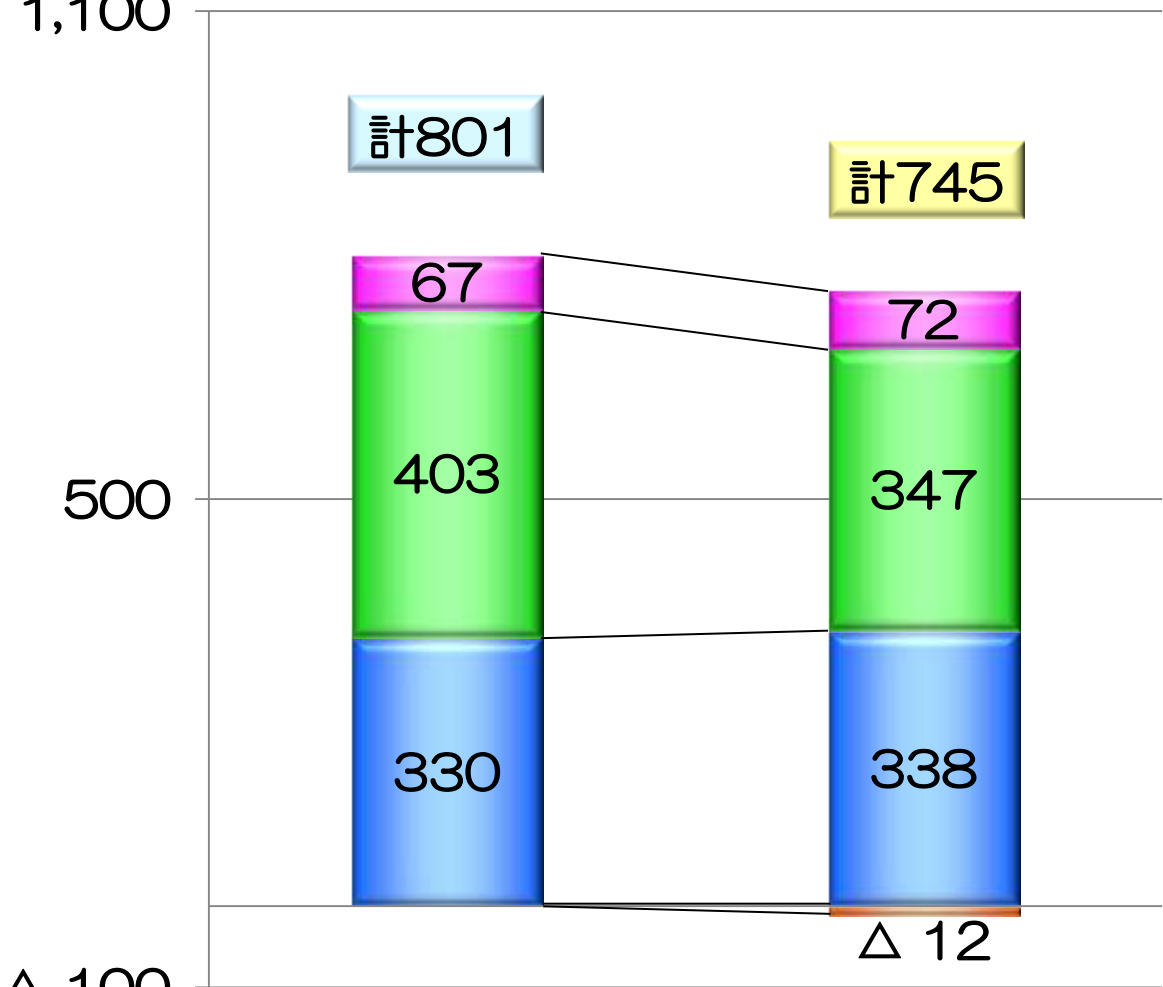
	13年度 実績 ①	14年度 見通し ②	単位：億円 差異 ②-①
受注・受託高	801	745	△ 56
売上高	681	675	△ 6
営業利益	26.4	23.5	△ 2.9
《営業利益率（％）》	《 3.9 》	《 3.5 》	—
経常利益	26.0	23.0	△ 3.0
《経常利益率（％）》	《 3.8 》	《 3.4 》	—
特別損益	0.0	0.0	0.0
当期純利益	13.1	13.5	0.4
《当期純利益率（％）》	《 1.9 》	《 2.0 》	—

※受注・受託高は長期運転維持管理業務の受託高を含む

◆Ⅱ 2014年度見通し  
セグメント別受注・受託高（連結）

単位：億円  
1,100

- 水処理
- 廃棄物処理
- 化学・食品機械
- セグメント間取引消去額

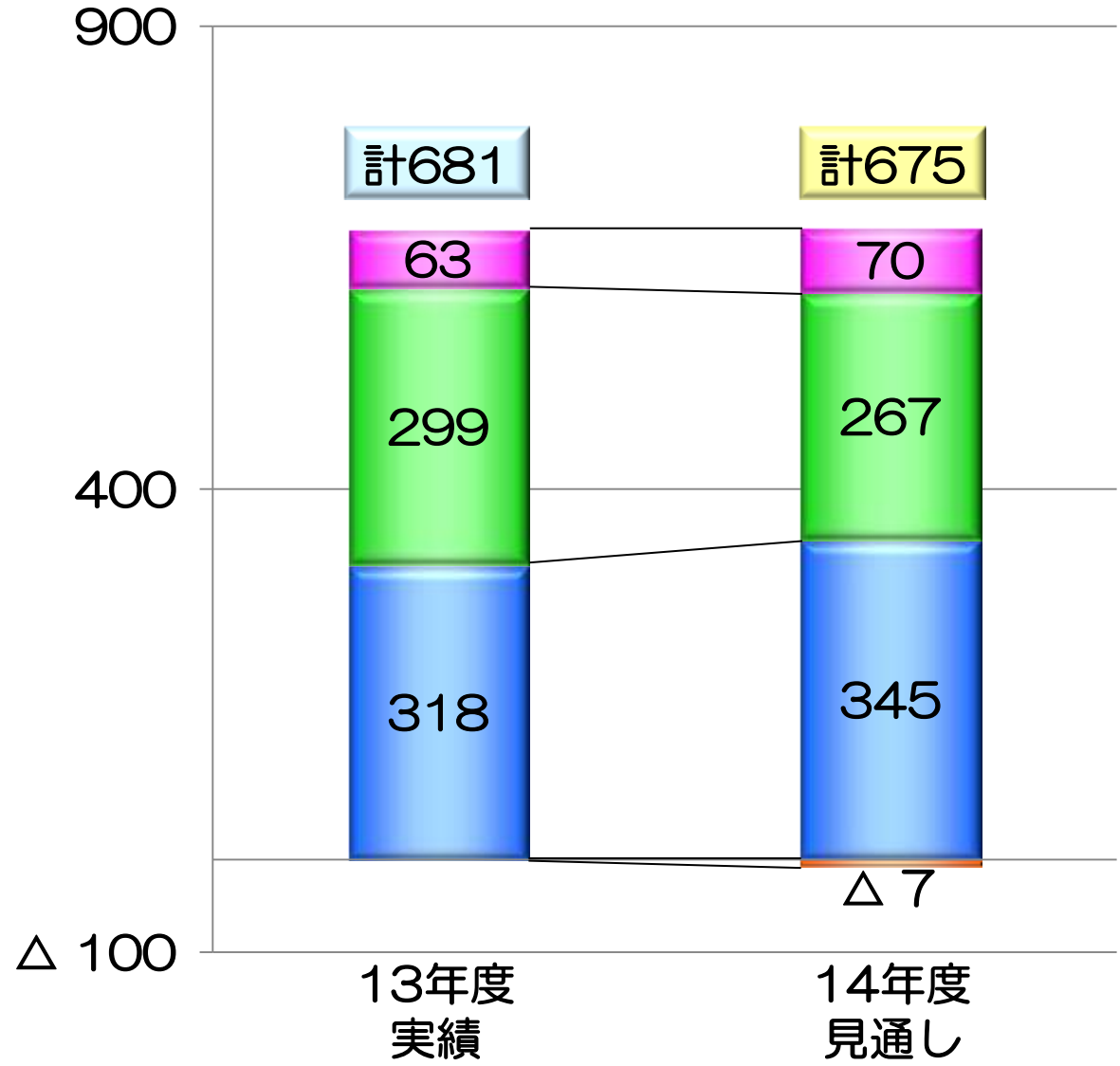
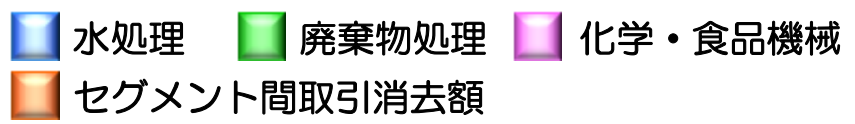


- < 13年度との差異 Δ56 >
- 化学・食品機械 (+5)
  - 廃棄物処理 (Δ56)  
・建設案件では増加を見込むものの前期に大型案件を受注したアフターサービス分野で減少
  - 水処理 (+8)
  - セグメント間取引消去額 (Δ12)

13年度実績      14年度見通し

◆Ⅱ 2014年度見通し  
セグメント別売上高（連結）

単位：億円



< 13年度との差異 Δ6 >

化学・食品機械 (+7)

廃棄物処理 (Δ32)  
・大型案件が13年度末に完工した影響などにより減収

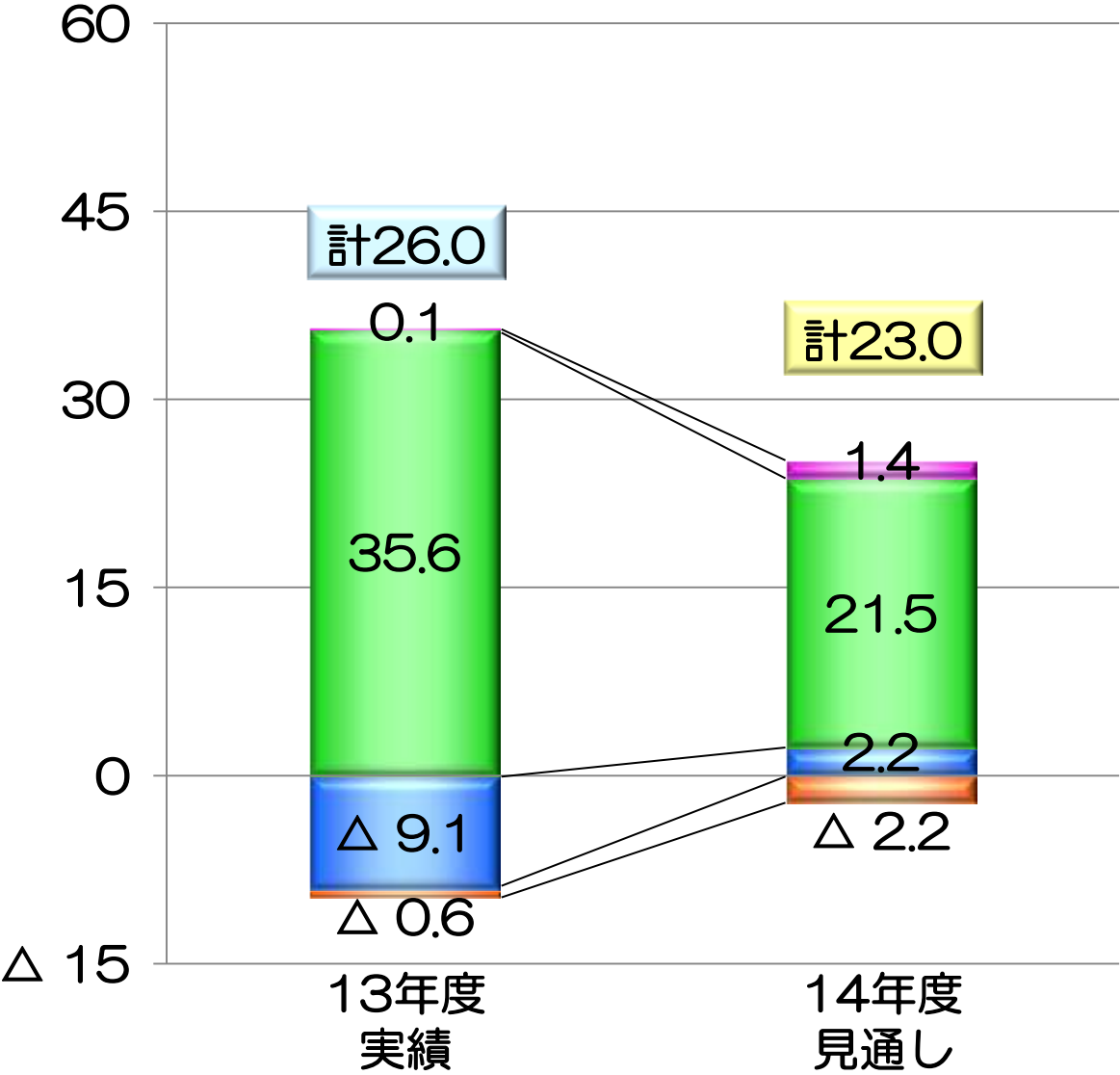
水処理 (+27)  
・官需水処理分野で増収

セグメント間取引消去額 (Δ7)

◆Ⅱ 2014年度見通し  
セグメント別経常利益（連結）

単位：億円

■ 水処理 ■ 廃棄物処理 ■ 化学・食品機械  
■ 調整額



< 13年度との差異 Δ3.0 >

化学・食品機械 (+1.3)

廃棄物処理 (Δ14.1)  
・ 案件構成の変化等により減益

水処理 (+11.3)  
・ 官需水処理、産業用水処理分野が改善

調整額 (Δ1.6)

## Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況

## ■目指すべき企業像

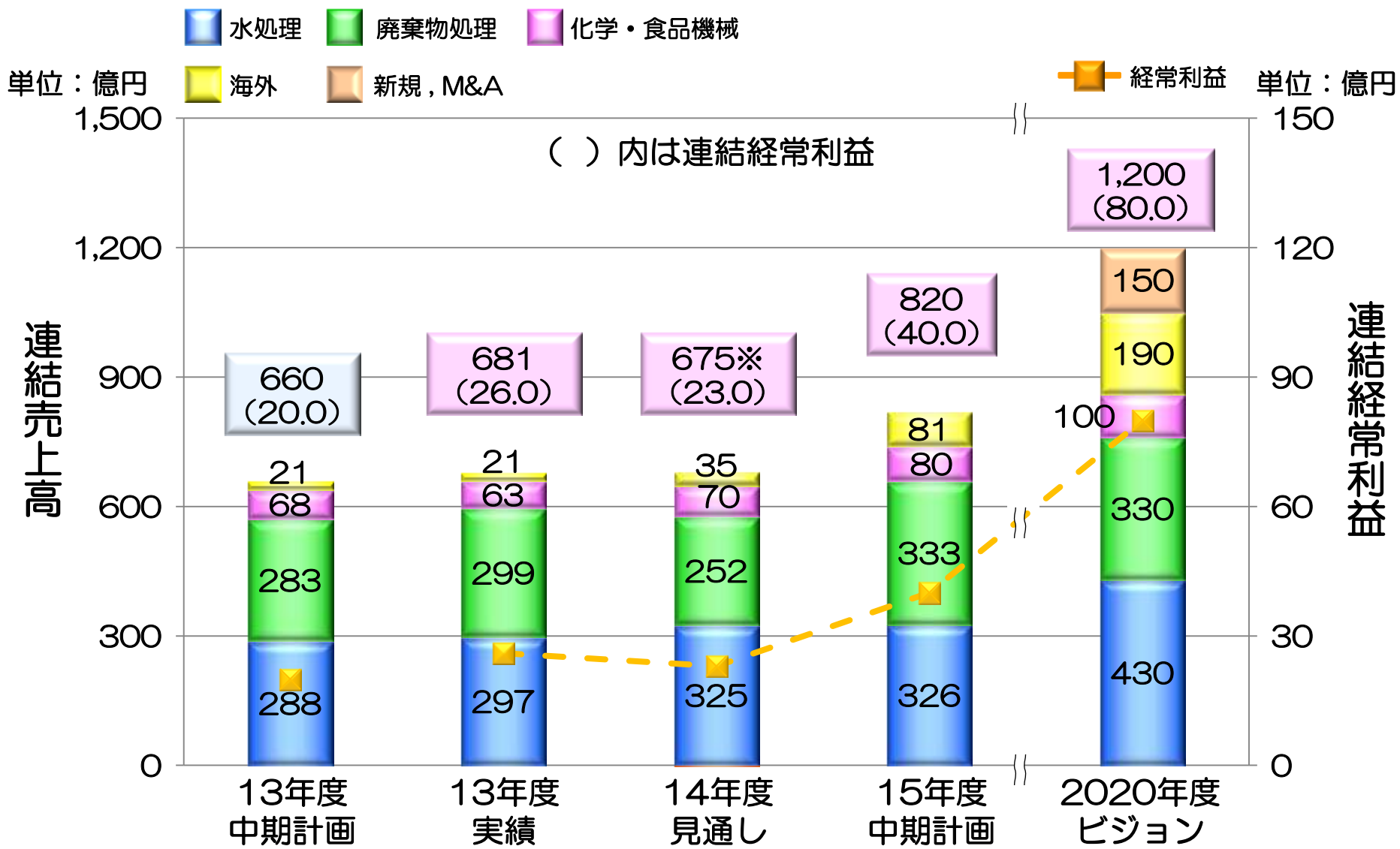
環境・エネルギー分野で、  
特色あるプロセス・ハード/サービスを  
提供する存在感のあるグローバル企業となる

## ■2020年度 数値目標

連結売上高 1,200億円

連結経常利益 80億円

## ◆Ⅲ 2013~15年度中期経営計画 売上高（連結）、経常利益（連結）



\*海外売上高は化学・食品機械分を除く

※14年度売上高675億円は、セグメント間取引消去額△7億円を含む



国内	共通	再生可能エネルギーの <u>関連需要が拡大</u> 放射能除染・廃棄物処理に関する <u>復興需要が本格化</u> 震災復興本格化に伴い、 <u>工事コストが上昇</u>
	水処理	国内公共投資は <u>低水準で推移</u> 官需ではDBO、長期包括委託方式等の 民間活用が <u>引き続き増加</u>
	廃棄物処理	国内公共投資は <u>回復</u>
	化学・食品機械	民間設備投資は先行き不透明なるも、 <u>回復の期待感あり</u>
海外	アジア等新興国	景気減速も、インフラ整備は <u>堅調</u> 日系企業の生産拠点シフト及びリスク分散が <u>加速</u>
	欧州	「EU再生可能エネルギー促進指令」の <u>採択</u> 再生可能エネルギーへのインセンティブにより ガス化溶融炉の優位性が <u>継続（英国）</u>

①業界でのレベル向上

＜体質改善、競争力強化＞

②海外における成長機会の追求

＜事業規模の拡大＞

③モノだけの価値から、サービスも含めた  
価値による事業形成への転換

＜収益最大化・安定化＞

④新規メニュー、新規事業の創出

＜成長と発展＞

## ①業界でのレベル向上

＜体質改善、競争力強化＞

- 技術の差別化と徹底的なブラッシュアップ
  - ・ 機器の準内作化/ユニット化の推進を継続
- 基幹ハードウェアの拡充
  - ・ 次世代下水汚泥焼却システムの開発を推進
- 廃棄物処理ライフサイクルコストの低減
  - ・ 廃棄物発電の高効率化、コストダウン活動を継続

## ②海外における成長機会の追求

＜事業規模の拡大＞

### ベトナム・東南アジア

- エンジニアリング拠点の拡充
  - ・ KESVのエンジニアリング拠点としての対応力向上
- 生産拠点の拡充
  - ・ グラスライニング製機器製造工場で生産開始
- ビジネスモデルの構築
  - ・ 工業団地参画型ビジネスへの注力

### 欧州

- 英国でのガス化溶融炉案件受注に向けた活動強化

## KESVの取り組み

- 2010年のKESV設立から着実に実績を積み重ね、単年度黒字化達成
- 工業団地や民間企業向け水処理設備の納入や、官民連携の水インフラ整備などでベトナムの工業化、環境保全に貢献

- 2013年 7月 KESV ハノイ支店開設
- 2013年 12月 ハイフォン市浄水場向けU-BCF設備(生物接触ろ過設備)納入
- 2014年 1月 ベトナム北部にて大規模案件受注

※KESVとして初の工業団地向け水供給設備の受注

## 工業団地向け案件概要

名称： Yen Binh Water Treatment Plant  
(工業団地向け水供給設備)

処理能力： 25,000m<sup>3</sup>/日

建設場所： Thai Nguyen省 Pho Yen  
ハノイ中心部より北に60km



Yen Binh 工業団地

## ◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況 ベトナム生産拠点の拡充

- グラスライニング製機器の将来的な需要増加に対応
- 当社国内工場におけるトータル生産コストの低減
- 2013年10月 竣工・操業開始

### 工場概要

工場名： KESV ロンドウック工場

所在地： ロンドウック工業団地内  
(ドンナイ省)

工場規模：敷地面積 10,000m<sup>2</sup>  
建屋面積 3,000m<sup>2</sup>

生産品目：グラスライニング製機器  
(反応機、貯槽、熱交換器等)



ロンドウック工場 (左) / 事務所 (右)

- 日本向けに出荷を開始  
播磨製作所のものづくり基本技能を習得、品質向上活動に注力

- 英国での再生可能エネルギー促進政策
- ROC（Renewable Obligation Certificate）制度
  - ⇒廃棄物発電において、ガス化溶融炉等の先進技術が優遇
- EMR（Electricity Market Reform）制度への移行が検討される
  - ⇒ガス化溶融炉の売電価格の優遇が更に鮮明化
  - ⇒ガス化溶融炉市場が中長期的に見込める

☆欧州市場の営業活動を継続、英国現地法人の設立検討中  
⇒英国でのガス化溶融炉1号案件の受注を目指す

### ③モノだけの価値から、サービスも含めた 価値による事業形成への転換

＜収益最大化・安定化＞

- DBO案件、長期包括委託案件への対応強化
  - ・ 長期包括委託案件を継続して受注
- 操業データの設計へのフィードバック
  - ・ 操業データの集約/一元管理化が着実に進展
- 定期的な技術&コストローリングによるリスク最小化



◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況  
流動床式ガス化溶融炉

➤ 案件を継続して受注⇒竣工へ      ➤ 流動床式ガス化溶融炉国内No.1

- 仙南地域広域行政事務組合向け（宮城県） **（2014年1月受注）**
- ◆ 契約金額 188億円 （15年間運営期間を含む建設・運営一括事業）
- ◆ 高効率ごみ発電施設 200トン/日（2系列分）、最終処分場の延命化
- ◆ 2017年3月竣工予定

- 西秋川衛生組合向け（東京都） **【2014年3月竣工】**
- ◆ 契約金額 168億円 （20年間運営期間を含む建設・運営一括事業）
- ◆ 設備能力 117トン/日（2系列分）
- ◆ 最終処分場の掘り起こしごみを安定処理



- 芳賀地区広域行政事務組合向け（栃木県） **【2014年3月竣工】**
- ◆ 契約金額 182億円 （20年間運営期間を含む建設・運営一括事業）
- ◆ 設備能力 143トン/日（2系列分）
- ◆ 下水汚泥等を含む多様なごみを安定処理



## ④新規メニュー、新規事業の創出 ＜成長と発展＞

- 放射能除染・廃棄物処理関連事業
- バイオマス利活用
  - ・ バイオマス発電
  - ・ バイオ天然ガス化技術
- 木質バイオマス発電事業
- 微細藻類生産技術の確立

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況  
放射能除染・廃棄物処理に関する取り組み

- 放射性物質を含んだ下水汚泥の焼却実証事業を無事終了（福島県）
- 神戸製鋼グループ全体で連携を図りながら安全の確保を最優先に遂行

13年9月開始、14年3月終了

処理方式：流動床式焼却炉、90トン/日

処理実績：下水汚泥 約11,000トン  
覆土用の土壌 約7,000トン

実施場所：福島県阿武隈川上流流域下水道  
県中浄化センター

実施結果：処理期間中の排気中放射能濃度は  
すべて不検出  
施設周辺の空間線量率モニタリング  
結果も異常なし



汚泥焼却炉

- 14年度以降は福島県が事業主体となり  
焼却処理を継続（指定廃棄物に該当しない下水汚泥）

- 福島県の汚染廃棄物対策地域内の廃棄物処理業務（減容化处理）  
第1号案件を受託
- 神戸製鋼グループ全体で連携を図りながら、安全の確保と工期厳守を  
最優先に推進中

## 案件概要

業務内容： 飯舘村小宮地区対策地域内の片付けごみを処理  
（減容化处理）

処理方式： 流動床式焼却炉

事業期間： 2013年11月～2017年3月

処理対象物： 汚染廃棄物対策地域の片付けごみ

焼却炉の特長： 外部への粉じん・ガス・放射性物質の漏出リスクが低い  
燃焼が速く、緊急停止時にもすぐに燃焼が停止し安全

◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況  
木質バイオマス発電事業

- 木質バイオマスを原料とした発電事業
- 大野市と立地に関する協定書を締結

2016年～ 事業開始（予定）

- 発電規模： 6,000 kW級
- 実施場所： 福井県大野市
- 発電施設： 流動床式ガス化燃焼炉
- 原料収集量： 約7～8万トン/年  
（間伐材、一般木材 等）
- 事業主体： (株)福井グリーンパワー
- 特長： 20年間の固定価格買取が保証されるFIT制度を活用予定



協定書調印式

# ◆Ⅲ 2013～15年度中期経営計画進捗状況 微細藻類生産技術の確立

➤バイオマス生産性に優れた微細藻類の培養に成功

## 微細藻類とは

- 菜種等と比較して10倍以上の  
油脂生産能力を保有  
⇒国内外で活発な研究が行われている

## 現在の活動内容

- 培養条件の最適化を目指し、培養実験を  
継続中
- 複数のビジネスパートナー候補と協議中  
⇒2018年度に向け実用化を目指す
- 食品/化粧品・下水処理・バイオ燃料での  
適用を検討中

微細藻類（EOD-1）



50 μm

写真提供：筑波大学  
渡邊信・彼谷邦光研究室

## ◆将来見通しに関する注意事項

本資料の中には、当社の将来への予測に関する内容が含まれています。これらは、当社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。当社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。